

第1学年 道徳学習指導案

日 時 平成27年11月6日(金) 3校時
学 級 1年1組(男子10名 女子9名 計19名)
授業者 多田 佳菜

1 主題名 友達っていいな【2-(3)友情】

2 資料名 「こころはっば」 (「小学校道徳1 みんななかよく」 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章の道徳 第1学年及び第2学年の内容項目2-(3)は、「友達と仲よくし、助け合う。」である。この内容項目は次のように発展していく。

低学年2-(3) 友達と仲よくし、 助け合う。	中学年2-(3) 友達と互いに理 解し、信頼し、 助け合う。	高学年2-(3) 互いに信頼し、学 び合って友情を 深め、男女仲よく 協力し助け合う。	中学校2-(3) 友情の尊さを理解して心から信 頼できる友達をもち、互いに励ま し合い、高め合う。 中学校2-(4) 男女は、互いに異性についての正 しい理解を深め、相手の人格を尊 重する。
-------------------------------	---	---	--

友達は遊びなどを通して深く関わり合い、楽しい時間を共に過ごしたり喜びや悲しみを共有したりできる存在である。時には、心の支えや困難に立ち向かう時の原動力となることもある。世代が同じ者同士、友情を広げたり深めたりしながら互いに影響し合って成長していくものである。しかし、社会生活の中には、様々な考えや立場の人間がいる。良好な友達関係を築くためには、進んで人と関わり、相手を理解しようとするのが大切である。幼少期から様々な人と関わり合い、共に遊んだり学習したりする楽しさや喜びを感じることで協力や助け合いの心が生まれ、よりよい生き方へとつながるものとする。

この時期の児童は、学校生活にも慣れ、学習や遊びを通して子ども同士の関わり合いが増えてくる。学級集団の中で生活することを通して、グループ学習や集団遊びもできるようになってきている。友達の輪が広がり、子ども同士での活動が増えてきたこの時期に、いろいろな立場や考えの友達と進んで関わろうとする気持ちを育てることが大切である。

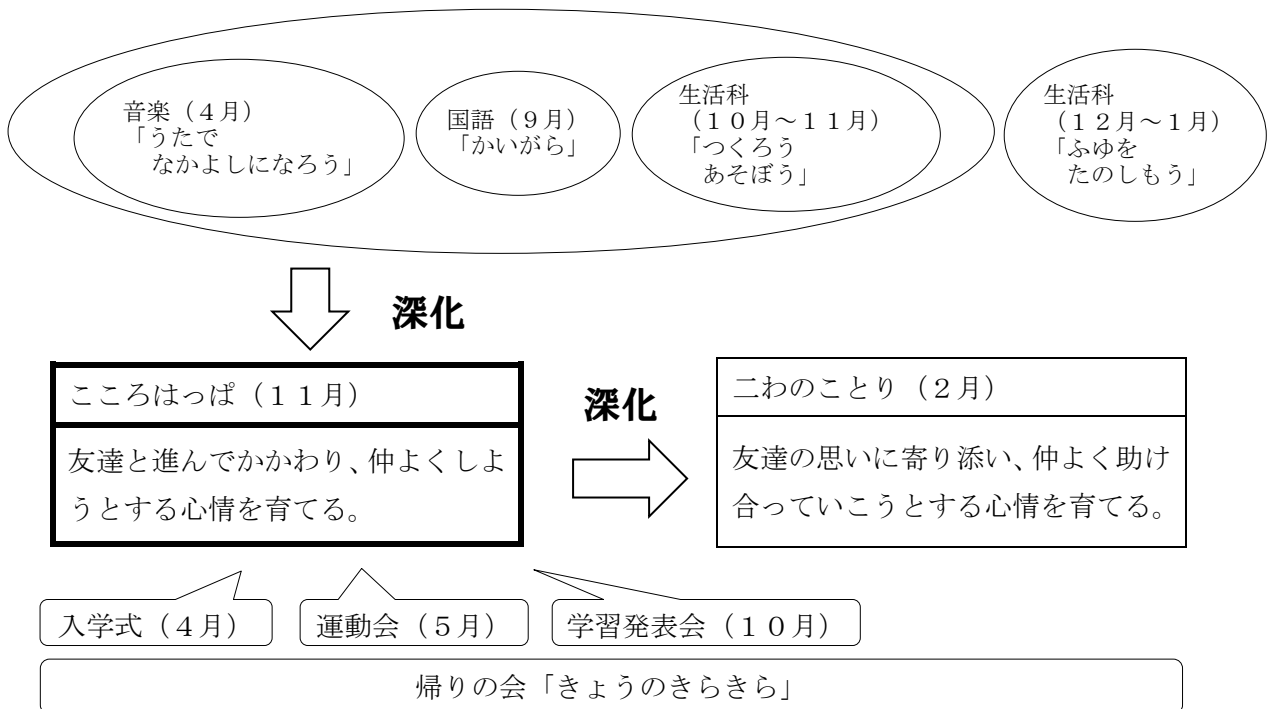
(2) 児童について

本学級の児童は、複数の保育園や幼稚園から集まって来ている。入学当初は、同じ保育園や幼稚園の友達同士で関わる児童が多かったが、徐々に新しくできた友達と教え合ったり学習をしたり休み時間には一緒に遊んだりするようになってきた。帰りの会の「きょうのきらきら」では、友達の良い行動やみんなの頑張りを伝えようとしている。しかし、いろいろな友達と関わることに消極的で、一緒に遊ぶ友達が固定化していたり声をかけてもらわないと一緒に活動できなかつたりする児童が多い。また、お互いの欠点を指摘し合い、利己的な態度をとってしまう児童もいる。

そこで、本指導を通して、相手の気持ちに寄り添いながら進んでいろいろな友達と関わることの大切さやよさについて考えさせたい。

4 教科・領域との関連と補充・深化・統合の視点

- ・ 2－（3）信頼友情について、児童は、「こころはっぱ」「二わのことり」という2つの資料をもとに深めていく。
- ・ 国語の「かいがら」では、自分のお気に入りのかいがらをあげた主人公と受け取った友達の気持ちを想像しながら読み、友達を思う優しさや思いやりの大切さを学んだ。
- ・ 生活科の「つくろうあそぼう」では、みんなが楽しく遊べるように約束を考えたりルールを工夫したりしながら、みんなで仲よく遊ぶ経験をした。
- ・ 本資料「こころはっぱ」では、「友達と進んでかかわり、仲よくしようとする心情を育てる」をねらいとして指導していく。好きや嫌いに関わらず、いろいろな友達と進んで関わろうとする心情を育てる。「二わのことり」では、「友達の思いに寄り添い、仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。」をねらいとして、相手の気持ちを考えて行動しようとする心情を育てていきたい。



5 本時の指導

（1）ねらい

友達と進んでかかわり、仲よくしようとする心情を育てる。

（2）指導にあたって

- ・ 導入では、こころはっぱの木を提示してその特徴を確認し、本時の資料への方向付けを図る。
- ・ 展開では、友達のいないいのししくんに声をかけるたぬきくん、きつねくん、うさぎちゃんの心情の変化を中心に話し合わせる。いのししくんの気持ちを考え行動した3匹の気持ちに共感させ、進んで友達と関わり仲よくすることのよさに気付かせたい。その後、友達との関わりについて想起させ、その時の気持ちを考えさせて自己の生活と結び付けていきたい。
- ・ 終末では、児童の価値的な行動を紹介し、友達と進んで関わることのよさや大切さについて考えさせたい。

(3) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 ころはっぱの木の特徴を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・不思議な木だな。 ・明るい色はどんな色かな。 ・さみしい色はどんな色かな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ころはっぱの色を考えながら、想像を膨らませ、資料への方向付けを図る。
展開 35分	<p>2 資料ついて話し合う。</p> <p>○初めていのししくんを見たとき、たぬきくんときつねくんとうさぎちゃんはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>○いのししくんの言葉を聞いて、たぬきくんときつねくんとうさぎちゃんは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <p>◎ころはっぱをわらって追いかけるたぬきくんときつねくんとうさぎちゃんは、どんなお話をしているのでしょうか。</p> <p>3 今までの生活を振り返る。 ○同じように、みんなのころはっぱの色が明るい色になったのはどんな時でしたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きいな。 ・強そうだな。 ・怖いな。 ・寂しそうだな。 ・友達になりたいな。 ・かわいそうだな。 ・友達になってあげようかな。 ・遊びに誘おう。 ・きれいなはっぱだね。 ・楽しいな。 ・いのししくんと仲よくなれて良かった。 ・遊ぼうって言って良かったね。 ・みんなで遊ぶと楽しいね。 ・遊んでいる時。 ・体育でゲームをした時。 ・生活科でおもちゃを作って遊んだ時。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ後、登場人物や場面状況を確認する。 ・たぬきくん、きつねくん、うさぎちゃんの心情を考えさせながら、いのししくんの立場や状況を捉えさせる。 ・いのししくんの言葉を音読し、いのししくんの気持ちを考える3匹に共感できるようにする。 ・3匹の気持ちを考えて学習シートに記入させる。いのししくんの気持ちにも触れ、みんなで楽しんでいることを捉えさせる。 ・進んで人と関わることのよさや友達がいることの喜びを実感させる。
終末 5分	4 進んで友達と関わり、活動している児童を紹介する。	(友達がいると楽しいな。) (友達ともっと仲よくなりたいな。)	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで友達と関わり、いろいろな友達と仲よくしようという気持ちをもたせる。

(4) 板書計画

ころはつば

- ・さびしそうだな。
- ・かわいそうだな。
- ・はなしかけようかな。
- ・あそびにさそおう。

- ・こわいな。
- ・どんなこかな。
- ・さびしそうだな。
- ・ともだちになれるかな。

「ああ、ともだちほしいなあ。どうしたら……、ぼく……、ともだち、できるのかなあ……。」

たぬきくん きつねくん うさぎちゃん

いのししくん

「ともだちになつて。」

「いっしょにあそぼう、いのししくん。」

- ・きれいなはつばだね。
- ・なかよくなれてよかったな。
- ・またあそびたいな。
- ・さそつてよかったな。
- ・みんなであそぶとたのしいな。

ともだちがいるといいな

ころはつばを
おいかけろ 4匹